

古事類苑

植物部二十一

草十

酢漿草

〔本草和名^{十一}〕酢漿草、一名酢母草、一名鳩酸草、已上二名和名加多波美。

〔倭名類聚抄^{二十}〕酢漿草、本草云、酢漿草、和名加太波美

〔箋注倭名類聚抄^十〕蘇注、葉如細萍叢生、莖頭有三葉、蜀本圖經云、葉似水萍、兩葉並大、葉同枝端、花

黃色實黑、生^下濕地、圖經、葉如水萍叢生、莖端有三葉、葉間生細黃花、時珍曰、苗高一二寸、叢生布地、

極易繁衍、一枝三葉一葉兩片、至晚自合帖、整々如一、四月開小黃花、結小角長一二分、內有細子、冬

亦不凋、

〔下學集^下〕草木鳩酸^{カクハク}艸

〔物類稱呼^三〕酢漿草かたばみ 一名すいものぐさ 京にてとんぼぐさ、泉州堺にてすも、筑紫

にてこがねばな、出雲にてすいぐさ、相模にてはすぐさ、江戸にてすぐさ、奥津輕にてすかんど、尾

張にてすいもの草と云、

〔宜禁本草^乾〕藥中草酢漿草、酸寒、主惡瘡、擣傳之殺小虫、解熱渴、初生嫩時小兒多食之、措銚石器白如

銀、

〔和漢三才圖會^{九十八}〕酢漿草 三葉酸 三角酸 雀林草 酸母 雀兒酸 酸箕 赤孫施 鳩

酸 小酸弟 醋母^略○中